

11/2(水)ニューヨークの国連本部で NPO法人ホロコースト教育資料センター(Kokoro)の 取り組みを発表します

NPO法人ホロコースト教育資料センター(以下Kokoro)は、命を尊ぶ心、寛容な心を育むために、ホロコースト(ナチスのユダヤ人虐殺)の歴史を教材とした教育活動を行っています。これまで、国内外1,000以上の学校などで、「ハンナのかばん」や「杉原千畝と日本にやってきた難民」を用いたホロコーストの授業を20万人の子どもたちと実施してきました。

この度、ニューヨークの国連本部より招待を受け、11月2日(水)に開かれる会議でKokoro代表・石岡史子がNPOの取り組みについて発表をします。会議は、「ホロコーストの記憶と公共の記念碑:過去と向き合う複雑さと課題」というテーマのもと行われるディスカッションで、南アフリカ、ブラジル、ウクライナなどの代表と共に、Kokoroは日本の子どもたちに向けて実施しているプログラムを発表します。(各国の発表時間は10分)

ぜひ取材のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ 日 時 : **2016年11月2日(水)** 18:30~20:30

※日本時間は
11/3(木)07:30

■ 場 所 : 【会場】 ニューヨーク国連本部、会議室1

※会議の様子は、インターネット上でライブ放送される予定です。
アーカイブに保存されますので、後日ご覧いただくこともできます。
<http://www.un.org/en/holocaustremembrance/2016/2Nov.html>

国連とホロコースト 公式サイト : <http://www.un.org/en/holocaustremembrance/>

2005年に国連は、ホロコーストの歴史がすべての人びとに、差別や偏見、憎しみの危険性を警告しているとして、総会決議を採択し、アウシュヴィッツ強制収容所が解放された1月27日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」と決めました。また、この国連の決議は、加盟国に対して、ホロコーストの歴史を教育の場でとりあげるように呼びかけました。

その具体的な実施のために、国連は、「ホロコーストと国連アウトリーチ・プログラム」を創設しました。ニューヨークの国連本部や世界各地で、1月27日の記念式典をはじめ、様々な行事が開催されています。NPO法人ホロコースト教育資料センターでも毎年この国際デー前後に上映会やシンポジウムを実施しています。

NPO法人ホロコースト教育資料センター(Kokoro)の主な教育プログラム

- ・「ハンナのかばん」 - アウシュヴィッツ博物館からKokoroで借り受けた旅行かばん。持ち主のハンナは13歳で殺されるが、Kokoroの調査により、兄ジョージ・ブレイディが虐殺から生きのびていたことが分かる。全国の学校などで出張授業を行い、今年、訪問校が1,000校を超えた。
- ・「杉原千畝と日本にやってきた難民たち」 - 助けられた人たち30名から集めた証言をもとに、杉原千畝の勇気ある行動と、そこから広がっていった“助けた人たちの輪”を教材にした授業。
- ・「ベルリン&アムステルダム 記憶の街歩き」、「タイムトラベル! アンネ・フランク」、ほか

お問い合わせは、NPO法人ホロコースト教育資料センター(石岡)までお願いします。

TEL:03-6450-3413 / 090-4072-4402 Email : holocaust@tokyo.email.ne.jp
ホームページ : <http://www.npokokoro.com/> (11/1以降はメールでお願いします)